

カフェレター



2020年6月27日発行
発行:たかみや人権福祉センター
☎57-1330

みなさん、お元気ですか？ 早いものですね。2020年も半分が過ぎようとしています。本当は、今頃、もうすぐ開幕だったはずの東京オリンピックをワクワクして待っていたのですね。誰も想像しなかったようなことが次々起こる年となりました。「新型コロナウイルスとの共生」という言葉が言われるようになりました。戦うのではなく、うまく付き合っていく。コロナウィルスに感染しないように注意する、感染しても拡大させない注意をする、今までしていなかったことをする新しい社会になるのですね。

「まちかどカフェささゆり」は、ものすごく3密です(密閉・密集・密接)。

3月からカフェの営業自粛をしながらずっと考えていたのですが、しばらくは無理をしない方がいいよね、という判断で、今年度は営業自粛を続けようと思います。で、みなさまには、季節のお便りなどお届けできればと思っております。

このレターをご覧いただきながら、おうちカフェを楽しんでいただければ嬉しく思う次第です。

従業員一同

川根 ラベンダー便り

まちかどカフェでは、毎年、この季節になると、ラベンダーのバンドル作りをしています。部屋中がラベンダーの香りいっぱいの癒し空間になりますよね。今年はできなくて残念なので、爽やかなラベンダーの風景をお届けします。



2020年6月24日
川根梶矢橋付近で撮影

ラベンダーバンドルの作り方

ふぁみりーねこの手のみなさんに
教えていただきました。

ねこの手では、長い茎を活かして作るので、「ラベンダースティック」と呼んでいます。
花は編み込むので、咲ききったものでも大丈夫です。



①

ラベンダー13本の
花の下をもめん糸で
しばります。



②

糸で、花の先に向かっ
てぐるぐると巻きなが
ら形を整え、糸を切り
ます。



③

6mm幅のリボン
1m50cmくらいを花
の下に結びます。



④

さかさにして、茎を花
の方に折ります。指で
おさえながら折ると
うまくいきます。



⑤

全部折ったら、茎にリ
ボンを交互にくぐらせ
ながら、花のまわりを
編んでいきます。



⑥

リボンと茎が市松模様
になるように気を付け
ます。



⑦

花を包み終わったら、
根元を1回まわして、茎
をリボンで巻いていき
ます。



⑧

お好みの長さまで巻
き、茎を二つに割って
リボンを通して止め、
余分の茎を切ります。
余ったリボンで飾りの
リボンを作ります。

～ラベンダーメッセージ～

「ハーブの女王」とも呼ばれるラベンダー。

美しい薄紫色、凛としたいたずまいから、そう呼ばれるのでしょうか、決して気位の高い女王ではありません。むしろ、強く謙虚な村娘と呼んだほうがふさわしいかもしれません。

川根で植えているラベンダーは、グロッソという品種です。特に肥沃でなくても、日当たりがよく、風通しの良い土地に植えられれば、寒さ暑さにも耐え、元気に育ちます。

たくさんの種を飛ばしたり、地下茎を伸ばしたりして、まわりに勢力を広げることはしません。ひたすら植えられた場所で命をつないでいきます。

ラベンダーは、こんもりとした紫色の花の株として知られていて、一つの株の花は同時に咲くように思われる方も多いかもしれません。実は、花にも個性があり、同じ株でも、早く咲く花、遅く咲く花があります。私たちは花の個性に合わせた付き合いをめざしています。

早熟な花は大きく、茎もまっすぐなので花束に、遅く咲く花や曲がった花は、オイルになって永遠の命を得ます。編み込まれてスティックになるものや、すだれになるものもあります。

「みんなちがって、みんないい」を身をもって表している花、ラベンダーは、人権や福祉の心とつながるものがあるかもしれませんね。

ラベンダーの花を摘み取りたい方、スティックやすだれの手作りを体験されたい方は、
ふぁみりーねこの手 熊高(090-8244-9115)までお電話ください。